

松川村役場 総務課 1万人復活特命係

TEL: 0261-62-3111

E-mail: tokumei@vill.matsukawa.nagano.jp



安曇野ちひろ公園FB



地域おこし協力隊FB



地域おこし協力隊のことを、みなさまにお伝えしている『地域おこし協力隊通信』。第三弾となる今回は、長野県内における協力隊の任期終了後の現状や、村協力隊員の紹介を行います。(作成:地域おこし協力隊 川上 洋一)



①長野県内の地域おこし協力隊について

まず、全国の地域おこし協力隊員は、年々増え続け、現時点で4,000人を超えています。長野県内でも年々増加しており、県の統計によると、平成29年10月時点で、68の自治体で300人を超える隊員が活動しています。これは、北海道に次ぐ全国2位の規模です。

地域おこし協力隊は、地方における人口減少が著しい中、新たな地域の担い手を都市部から呼び込み、地域力の維持・強化を図ることを目的として導入された制度です。それだけに、地域おこし協力隊としての任期を終了したあとの動向が注目されます。



②任期終了後の定着率は？

任期については、1年ごとの契約更新で最大3年のというのが一般的です。1～3年で任期を終了した隊員のうち、約55%が、同一市町村内に『定着』しています。その後もずっと住み続ける『定住』に繋がることが期待されます。



③定着後の仕事は？

企業等への「就職」が5割強、「起業・起業準備中」が2割強、「就農・就林」が1割強となっています。

「就職」が最も多いとはいえ、「起業・就農等」が合わせて3割を超えているというのは、非常に高い数字です。任期前から、または、活動を通じて、起業・就農等に向けた決意を固める隊員が多くいることが伺えます。

裏面では、昨年着任した2名の協力隊員を紹介します！

地域おこし協力隊を紹介します！

インタビュー：協力隊 川上



安曇野ちひろ公園

昨年4月に着任した御子柴さん。自然をフィールドに子ども向けの文化事業を企画・運営したいと考え、東京から松川村に移住してきました。出身は伊那市で、金沢の大学に進学後、帰省の際は大系線を利用し、北アルプスの風景に癒されていたそうです。

担当は、拡充オープンした安曇野ちひろ公園での活動。主にトットちゃん広場（電車の教室・トモエの講堂）で、サポート隊の方々や安曇野ちひろ美術館と連携しながら「ちひろ公園遠足」や「トットちゃんの運動会」など、様々なイベントの企画・運営・管理を担当しています。なぜここにトモエの講堂と呼ばれる建物があるのか、その奥の2両の電車はどういった意味や経緯があるのか。観光客の方々から湧く様々な疑問に、丁寧に説明をしてくれます。



休日のはのんびりと自転車に乗ったり、ハイキングを楽しみます。昨年、自分で育てたバジルを使ってソースを作ったときは、大変好評でした。『サポート隊の方などから、村の諸行事にまつわるエピソードなどを聞けることが、とても興味深いです、うれしく思います。これから、もっと地域の歴史や文化を勉強していきたいです。』

昨年5月に着任した高橋さん。自然や農と近い距離での暮らしがしたいと思い、新潟県から松川村に移住してきました。

普段は営農支援センターに勤務しており、主に「食育」と「農産物のPR・販売」の仕事に関わっています。食育では、保育園児や小学生と、野菜や米を一緒に育てました。本格的に何かを栽培するのは初めてだったので、悩んだり、失敗することもありましたが、子供たちとワイワイと畑作業をし、収穫したものを一緒に食べた時は、感動もひとしおだったとのこと。

任期終了後は、新規就農を考えており、農産物のPR・販売も積極的にやってきたいと意欲を示します。

最後に高橋さんから一言。『昨年末に結婚し、春には子どもが産まれる予定です。忙しくなりそうですが春が待ち遠しいです。まだまだ知らない事があるので、これからも松川村のことたくさん教えてください。よろしくお願いします。』



営農支援センター

